

まえがき

2000年代後半、いざなぎ景気を超える長期の景気回復が謳われていた頃、遅まきながら日本でもイスラーム金融に対する関心が高まった。イスラームを含め宗教とは縁遠い生活を送る多くの日本人にとって、イスラームという言葉はいまだになじみの深いものではない。そのため、イスラームという形容のついた金融にはどこかものめずらしさがあり、またそこから新たな金融知識がえられるかもしれないという期待感もあって、日本人の知的好奇心をくすぐったように思われる。

しかし、その関心もリーマンショックのあと急速にしぼんでしまったように見える。それは世界の景気が悪化したことにもよるが、それとは別に、日本の金融市場では、イスラーム金融の基本的な知識を身につけた人たちが、イスラーム金融の取引を実際に目にする機会は依然としてなく、習得した知識を確認し、さらに発展させる実践の場に恵まれなかったことも一因であろう。

そうした私たち日本人がイスラーム金融の情報に触れるのはもっぱら新聞報道などであるが、そこで目にするイスラーム金融は、世界中を駆け巡るオイルマネーとかなりの部分重なっている。そのためイスラーム金融は中東特有の金融手法であり、国を越えた巨額な資金を扱う仕組みであるような印象をあたえがちである。しかし、それだけがイスラーム金融ではない。現在イスラーム金融は、中東をはじめとしてアジア、先進国へと広がっており、各国の国内金融システムのなかで、それぞれの国が抱える事情に合わせ、その実践の形を変えて取引されている。

日本人の関心が足踏みをしている間にもイスラーム金融を取り巻く環境は急速に進化している。日本でも2008年銀行法施行規則が一部改正され、銀行の子会社・兄弟会社の業務としてイスラーム金融が是認された。これに追隨する日本での新たな動きを期待して、アジア経済研究所では2008年から「イスラーム金融のグローバル化と各国の対応」2年研究会を開始した。当研究会の主旨は、世界各地に広がるイスラーム金融の現状を概観

することであった。研究会開始から2年の間に世界経済の環境は大きく変わったが、世界各地でイスラーム金融取引が活発に行われていることに変わりはない。拡大する動きをうけて研究会の調査対象として扱う国の数も増え、イスラーム国・非イスラーム国を含め16の国と地域に広がった。本書はこの研究会の成果をまとめたものである。

本書の特長は、多くの国々でのイスラーム金融の実践の様子を一望できることであり、さらにそこから国や地域による違いやイスラーム金融のもつ多様性を確認できることである。「イスラーム金融はイスラーム国の多い中東地域のものであり、そこではイスラーム金融は盛んであろう」という先入観はイスラーム金融が抱える複雑さの前に崩れる。本書を通じてこのようなイスラーム金融の抱える多様性を少しでも理解してもらい、多くの読者のさらなるイスラーム金融への関心につながることを期待している。

2010年10月

濱田 美紀